

第4回豊岡市基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時 平成28年7月6日（水）午後3時15分～午後4時25分
開催場所 豊岡市役所 3階庁議室
出席委員 加藤委員、井垣委員、大槻委員、近本委員、土野委員、宮崎委員、由利委員、
上田委員、岡本委員、河口委員、河本委員、酒井委員、中嶋委員、中川委員、
田口委員
欠席委員 西村委員、平峰委員
傍聴人 1名

1. 開会

2. 会長あいさつ

皆さん、勉強会お疲れ様でした。また、8月にも平田オリザさんの話がありますので、またよろしくお願ひします。早速ですが、議論に入りたいと思います。

3. 協議事項

（1）総合計画の位置づけ・今後の議論

～ 事務局から説明 ～

会長 ご説明ありがとうございました。この議論の中身が他の分野と重なっているのではないかと、位置づけがよく分からないという話があったので、私自身も今うかがってよく分かりました。地方創生等と重なった議論があると思いますが、そのあたりはそれぞれが仕分けしながら議論いただきたいと思います。

資料1については、市民憲章が土で条例が肥やしというのはなんともうまくまとめられていると思いました。

次期項目の基本理念のところ「いのちへの共感」となっていて、この肥やしは根のほうに行かずに土に近づいてきているということでしょうか。

事務局 表現は変わっていると思いますが、現内容の基本姿勢のところと次期項目イメージの基本理念のところはほぼ同じ様な記載になっていると思います。そういうものがまちづくりのなかに取り入れられて、経済とか教育とかいろんな分野に理念として入っていくものと思っています。

（委員） 資料2についてですが、次期項目の第3章のまちづくりにおける役割というのはどういうものでしょうか。また、第5章の基本施策で安全に安心して暮らせるまちというのが入っていると思いますが、ここの部分についてはもう少し上の段階、第1章から第3章までで入れておくべき性格のものなのではないでしょうか。

また、この審議会では基本計画は直接、関わらないと思いますが、4年間の重点推進部分の内容は現市長が言っていることがずらっと並んでいるだけであり、今まで会議で議論してきた経済や観光についてはどこに入っていくのでしょうか。

事務局 皆さんのご意見は、まちづくりの基本施策等、色々なところに入れていければと
思っています。この資料については、今は議論途中で仮のものとして認識いただければ
と思います。まちづくりにおける役割は、行政と市民との役割を記載することなど
を検討中です。

会長 これまでの議論は基本構想のどこかにうまく取り込んでいけばいいのではない
でしょうか。

(2) 前回のまとめ

会長 前回のまとめとして、20人ほどの学生と議論してメモとしてまとめてみたもの
です。一番の上位概念は格差のない暮らし、経済的な発展という概念が最も上位で
あり、教育、多文化共生というキーワードが印象的でした。その2つが地域の暮ら
しに影響を与えつつ、暮らしを楽しむとか安心社会というのが出てくると思いま
す。経験やつながりを持てるまちづくり、ベースには産業や経済活動、イノベーシ
ョンが回りながら、地域経済の発展というのがなされている感じです。

4. 意見交換「豊岡らしいまちの姿」

会長 ここでまちの将来像がわかるキーワードなどについて皆さんにご提案いただき
たいと思います。複数になってもよいですか。

事務局 はい、複数になってもかまいません。

副会長 お互いの欠点を補える社会が住みやすく安全安心なまちづくりに役立つとい
うようなことが抜けているのではないのでしょうか。

会長 つながりというキーワードでも分かるのではないのでしょうか。

(委員) 先ほど講習会で、デンマークの養豚場の話がありましたが、非常に効率的だと思
いました。同じく北欧のノルウェーでも漁獲量を抑えて、単価をコントロールする
などしています。日本では乱獲することで価格が下がるということが生じており、
それらを抑えていくことが必要だと思います。市場ニーズに応じたものを売らない
と最終的には自分たちの首を絞めることになります。数値等の客観的なデータをも
とにコントロールすることで発展性が出てくるので、そういうことが判断できるま
ちというのをどこかに入れてほしいと思います。

会長 全く同感です。成長戦略とか地方創生の中村良平さんの意見として、「数値に基
づいた地域づくりの提案というのをしっかりやっていきましょう」という話があり
ます。

(委員) つながりを育みながら、素敵なまち豊岡の実現に向かって行動をともにしてい
くことが必要だと思います。安心して安全に住めるまち、防犯や防災の備えが
しっかりしているまちであつたらいいなと思います。また、まちの将来像のよう
にこうのとりだけではなく、出石川には夏にはホテルが飛んでおり、豊かな自然と調
和しているまち豊岡であつたらいいな。また、年をとって体が弱くなってからも
近所で助け合えるあたたかいまち豊岡であつたらいいなと思います。

会長 みんなでつくりましょう、市民みんながそこでアクションを起こしましょうということですね。これは大事なところですよ。

(委員) 先ほどの講演のデンマークのしたたかさというのが印象に残っていて、合理的にIT化をして攻めている国であると思いました。そのなかでも全員が働ける社会と書いてありましたが、竹野で事業を展開する中で地元の方を採用するということがあって、実際にはひきこもりなどの方を採用するという現実があるんです。そのなかでジオパーク認定では自然環境だけが認められたわけではなく、そこで生活している人がジオパークをどう活用しているかによって更新されるという話を聞き、自分が認められてジオパークがあるという自信がもてたんです。だから、ひきこもっているような人たちも、あなたのその生き方が豊岡、生き様が豊岡という認めと責任の関係が市民には必要ではないでしょうか。認めるとか責任というキーワードがあればいいと思います。

会長 豊岡のライフスタイルが、世界が認める生活のスタイルにつながるという構図があり、活性化されているというか、表に出ているというかそのようなことですね。一億総活躍社会じゃないけど、豊岡全員主役社会というかそういう話かもしれません。重要なご指摘だと思います。

(委員) 市長が言われる「小さな世界都市」という表現がありますが、考え方としては非常に大事だと思います。そのベースには、安全や安心、自然やつながりがあることが大事であるとは思いますが。一方で、豊岡も若い人たちがよそからやってきてもらって発展していこうと思うと、目指すべき経済的な部分ですとか、文化もあると思いますが、他に認めてもらうような方向性が大事だと思います。グローバルに、インターナショナルに認めてもらえるような都市の方向を目指すべきじゃないかと思います。かばんやインバウンド、アートなどがありますね。

(委員) 豊岡でもコミュニティを作るプロジェクトが動いています。それぞれのコミュニティで、豊岡にしかないものをみんなが熱くなってやっていけば、目的も数値も見えてきて、みんなが生き生きしていくのではないのでしょうか。ちゃんとした明確な目標、豊岡にしかないものをもったほうがいいのではないのでしょうか。城崎がすごくよくなって観光客も増えているという話などを聞くとうれしいです。みんなが人に自慢できる、誇りに思える地域であるといいと思います。そうすればコミュニティが発展していくのではないのでしょうか。

会長 29のコミュニティですか。豊岡はそもそも一枚岩ではないというか、それぞれのコミュニティが自慢できるものを持っていて、その集合体が豊岡というのがわかりやすいかもしれませんね。

(委員) 先ほどの講演を聞いて、人口減少であってもこういうやり方があっていいなと思いました。豊岡市は、元々はバラバラの市町村で特徴が違うので、一緒にやるのが無理だという話がありましたが、それぞれのコミュニティが頑張っって誇りを持つことが豊岡らしさになるのかもしれない。

会長 デンマークはよく出てくる事例ですが、国が小さいから小回りが利くと言う話もありますが、実際にはやる気の問題だと思います。小回りの利く単位で、競争という嫌がられるかもしれませんが、30 のコミュニティがそれぞれ競い合うことでもっと楽しいものになるのではないのでしょうか。

(委員) 言うは易しなんですね。市街地でいうと 31 あります。一番小さいコミュニティは 30 軒足らずです。唯一、31 の全てのコミュニティでやってきたことは盆踊りだけです。市のほうでもコミュニティに関する考え方が変わってきており、表面的にはうまくやっているように見えますが、実際にはとても難しい状況にあります。

会長 平等にやるのは止めたほうがいいのかという話があります。まちのコミュニティは選択と集中というか、個性があるほうがよくて、それぞれがリスペクトしながらというのがよいのではないのでしょうか。

(委員) どんな時代になろうとも人として生きる力、子どもたちが生きる力を身につけておけば、残っていけるのではないかと思います。小さなことでも幸せを感じられる、ささやかなことを大きな幸せと捉える力しかないと思います。

会長 現在の小学生の将来の 65%は将来まだ存在していない職業に就くという話がありました。言い換えれば私たち 10 人のうち 7 人の仕事がなくなるということです。リンダ・グラットンというロンドン大学の教授が数年前にワークシフトという本を書いているのですが、変化の激しい環境のなかで、どういう仕事をしていくのが良いのかという世界調査があり、一つは、例えば、大学工学部を出たとしても一生土木工学で食べていけるわけではない、社会も個人の価値観も変わるといいうなかで、思いついた時に新しいことをできるような教育が重要ということが書いてありました。先ほどの講演でも face to face で何かのつながりを持って進めていく仕事は変わりようがないという話がありました。一方で、大学の大教室授業なんかはあっという間に集約されると思います。あと、心に残る経験というのが重要だということも書いてありました。豊岡で子どもたちが経験したことはずっと生きていくんです。経験が培われていくことが重要ではないのでしょうか。広い意味での教育、子どもを育むというかそういうことは大事だと思います。何かこれだということは非常に難しいので、メカニズムというか基本的な軸というのを位置づけるのが良いような気がします。

(委員) 来年度から豊岡市では小中一貫教育として、英語教育、コミュニケーション能力に関する教育を進めていきます。その一つとして、中学校 3 年生の修学旅行で、有楽町のアンテナショップで通行人を呼び止めて、自分たちで豊岡市を PR して商品を販売するというのをしました。彼らにとって経験というのは非常にプラスになっており、国会議事堂を見るより意味があると思います。まじめに商品を売って、最終の売り上げはいつもより大幅増でした。参考までに報告させていただきます。

(委員) 豊岡をアピールするということは、本当に地域の誇りがないとできないので、それ自体が教育となるし、自信もつくと思うので、これからも続けていきたいと思っています。

副会長 出石でも弘道小学校がありますが、4年生になるとふるさと探索ということで、自分たちで歴史やそば、商売人というのを学んでいくような、ふるさとを大切にす
るとい教育があります。時代がどんなに早く流れてもふるさとはなくならないの
で、小さい時の教育が非常に大切であると思います。去年から修学旅行でも広島に
行ったら、自分たちで行動して、集合時間に帰ってくるということをやっています。
高校までの教育は地域を大切にする、故郷に帰るとい意識をもって取り組む必要
があるのではないのでしょうか。

会長 大学に進学するとなれば故郷を離れないといけないので、Uターンするかどうか
はそれまでの育ち方、育てられ方にかかっていますよね。

(委員) 私は娘と娘の子どもと暮らしており、豊岡がどうなったら良いかとい話をよく
します。娘は豊岡で一般社団法人を立ち上げて寺子屋のようなことをやりたいとい
う思いがあり、若い人にはそういうエネルギーがあると思うので、応援してやりた
いと思っています。若い人たちのエネルギーをもう少し集約して、もう一歩踏み出
せるような支援が必要だと思ひます。

会長 埋もれている資源として、豊岡では人的資源があると思ひますので、それがうま
く出てくれば変わっていけると思ひます。時間もありますので、また、思いつくキ
ーワードを事務局までご提案いただければと思ひます

5. その他

事務局 次回審議会は、8月5日の開催となります。また、7月21日に開催する高校生
ワークショップについては、ご都合がつけば様子を見て、意見交換などいただけれ
ばと思ひます。

6. 閉会